

景気ウォッチャー調査

Economy Watchers Survey

平成 29 年 3 月調査結果

平成 29 年 4 月 10 日



内閣府政策統括官
(経済財政分析担当)

今月の動き (2017年3月)

3月の現状判断DI (季節調整値) は、前月差 1.2 ポイント低下の 47.4 となった。

家計動向関連DI は、住宅関連等が低下したことから低下した。企業動向関連DI は、非製造業等が低下したことから低下した。雇用関連DI については、低下した。

3月の先行き判断DI (季節調整値) は、前月差 2.5 ポイント低下の 48.1 となった。

家計動向関連DI、企業動向関連DI、雇用関連DI が低下した。

なお、原数値で見ると、現状判断DI は前月差 2.1 ポイント上昇の 50.6 となり、先行き判断DI は前月差 2.5 ポイント低下の 49.0 となった。

今回の調査結果に示された景気ウォッチャーの見方は、「持ち直しが続いているものの、引き続き一服感がみられる。先行きについては、引き続き受注等への期待がみられる一方、人手不足やコストの上昇に対する懸念もある」とまとめられる。

目 次

調査の概要	2
利用上の注意	4
D I の算出方法	4
調査結果	5
I . 全国の動向	6
1 . 景気の現状判断D I (季節調整値)	6
2 . 景気の先行き判断D I (季節調整値)	7
(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)	8
II . 各地域の動向	9
1 . 景気の現状判断D I (季節調整値)	9
2 . 景気の先行き判断D I (季節調整値)	9
(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)	10
III . 景気判断理由の概要	11
(参考 1) 景気の現状水準判断D I	24
(参考 2) 区分変更に伴う参考D I 等	26

調査の概要

1. 調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。(なお、平成12年1月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の5地域、平成12年2月調査から9月調査までの対象地域は、これら5地域に関東を加えた6地域である。)

地域	都道府県	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	
全国	上記の計	

平成28年4月調査より、南関東のうち東京都分の別掲を開始。

平成28年10月調査より、「甲信越」(新潟、山梨、長野)、「東北(新潟除く)」、「北関東(山梨、長野除く)」を参考掲載。

(2) 調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した2,050人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、「IV. 景気ウォッチャー(調査客体)の地域別・分野別構成(52頁)」を参照のこと。

3. 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断(水準)

4. 調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月25日から月末である。

5. 調査機関及び系統

本調査業務は、内閣府が主管し、下記の「取りまとめ調査機関」に委託して実施している。各調査対象地域については、地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」が担当しており、「取りまとめ調査機関」において地域ごとの調査結果を集計・分析している。

(取りまとめ調査機関)		三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
(地域別調査機関)	北海道	株式会社 北海道二十一世紀総合研究所
	東北	公益財団法人 東北活性化研究センター
	北関東	株式会社 日本経済研究所
	南関東	株式会社 日本経済研究所
	東海	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
	北陸	一般財団法人 北陸経済研究所
	近畿	りそな総合研究所株式会社
	中国	公益社団法人 中国地方総合研究センター
	四国	四国経済連合会
	九州	公益財団法人 九州経済調査協会
	沖縄	一般財団法人 南西地域産業活性化センター

6. 有効回答率

地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率	地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率
北海道	130人	113人	86.9%	近畿	290人	259人	89.3%
東北	210人	195人	92.9%	中国	170人	168人	98.8%
北関東	200人	187人	93.5%	四国	110人	92人	83.6%
南関東	330人	316人	95.8%	九州	210人	188人	89.5%
東京都	148人	144人	97.3%	沖縄	50人	37人	74.0%
東海	250人	225人	90.0%	全国	2,050人	1,874人	91.4%
北陸	100人	94人	94.0%				

(参考) 調査客体数及び対象地域の推移

調査開始(平成12年1月)以降の調査客体数及び対象地域の推移は以下のとおり。

- 平成12年1月調査は500人(北海道、東北、東海、近畿、九州)
- 平成12年2～9月調査は600人(北海道、東北、関東、東海、近畿、九州)
- 平成12年10月～平成13年7月調査は1,500人(全国11地域)
- 平成13年8月調査以降は2,050人(全国11地域)

利用上の注意

1. 分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
2. 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、DIを算出している。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

調 査 結 果

I . 全国の動向

- 1 . 景気の現状判断D I (季節調整値)
- 2 . 景気の先行き判断D I (季節調整値)
(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)

II . 各地域の動向

- 1 . 景気の現状判断D I (季節調整値)
- 2 . 景気の先行き判断D I (季節調整値)
(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)

III . 景気判断理由の概要

- (参考 1) 景気の現状水準判断D I
(参考 2) 区分変更に伴う参考D I 等

(備考)

- 1 . 「III . 景気判断理由の概要 全国 (11 頁) は、「現状」、「先行き」ごとに区分した3分野 (「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」) に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、5つの回答区分 (「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」) ごとに判断が良い順に掲載した。
- 2 . 「現状判断の理由別 (着目点別) 回答者数の推移」(12 頁) は、全国の「現状判断」の回答のうち3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数の多い上位3区分 (雇用関連は上位2区分) の判断理由として特に着目した点について、直近3か月分の回答者数を掲載した。
- 3 . 13 ~ 23 頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位3区分 (雇用関連は上位2区分) を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。「その他の特徴コメント」欄は、「判断の理由」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるコメントを掲載した。また、「先行き」欄は3分野それぞれについて、5つ回答区分の中で回答者数が多かった上位2区分 (雇用関連は上位1区分) を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「その他の特徴コメント」欄は「現状」と同様である。

I. 全国の動向

1. 景気の現状判断D I（季節調整値）

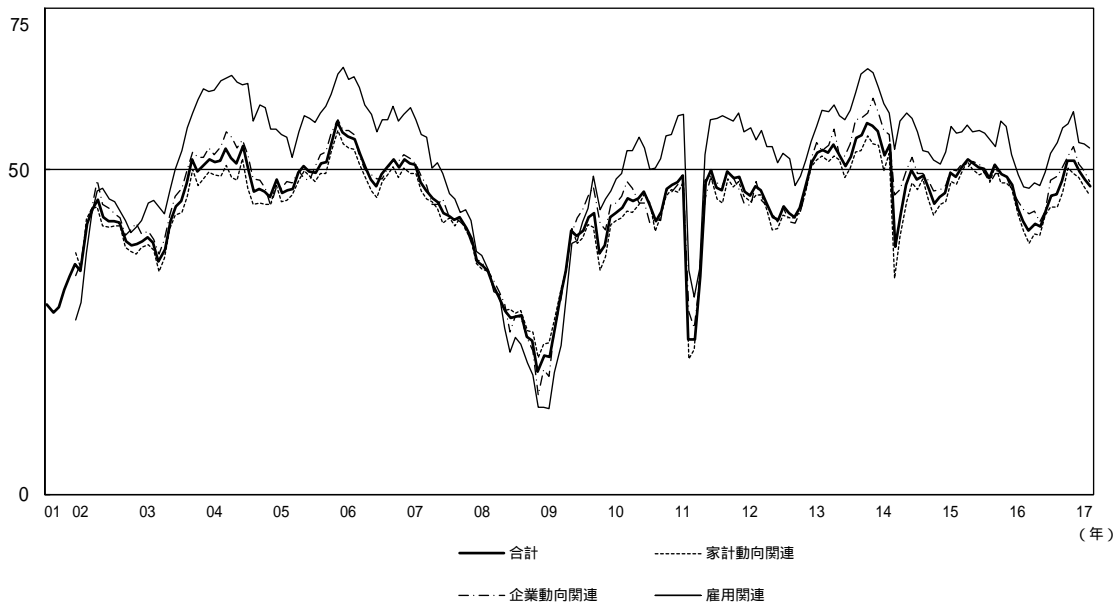
3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D Iは、47.4となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが低下したことから、前月を1.2ポイント下回り、3か月連続の低下となった。

図表1 景気の現状判断D I（季節調整値）

(D I)	年 2016			2017			(前月差)
	月 10	11	12	1	2	3	
合計	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	(-1.2)
家計動向関連	46.6	50.3	49.5	48.8	47.3	46.2	(-1.1)
小売関連	45.8	50.7	48.8	49.0	45.9	44.9	(-1.0)
飲食関連	44.7	48.3	50.8	48.7	47.3	44.1	(-3.2)
サービス関連	48.9	49.9	50.4	48.5	49.8	49.8	(0.0)
住宅関連	44.9	50.2	49.9	48.9	48.5	43.7	(-4.8)
企業動向関連	50.4	52.1	53.6	50.9	49.9	48.2	(-1.7)
製造業	50.4	52.4	53.9	50.5	48.8	47.7	(-1.1)
非製造業	50.5	51.9	53.6	51.6	51.0	48.7	(-2.3)
雇用関連	56.4	57.1	58.9	54.3	53.9	53.4	(-0.5)

(D I)

図表2 景気の現状判断D I（季節調整値）



2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)

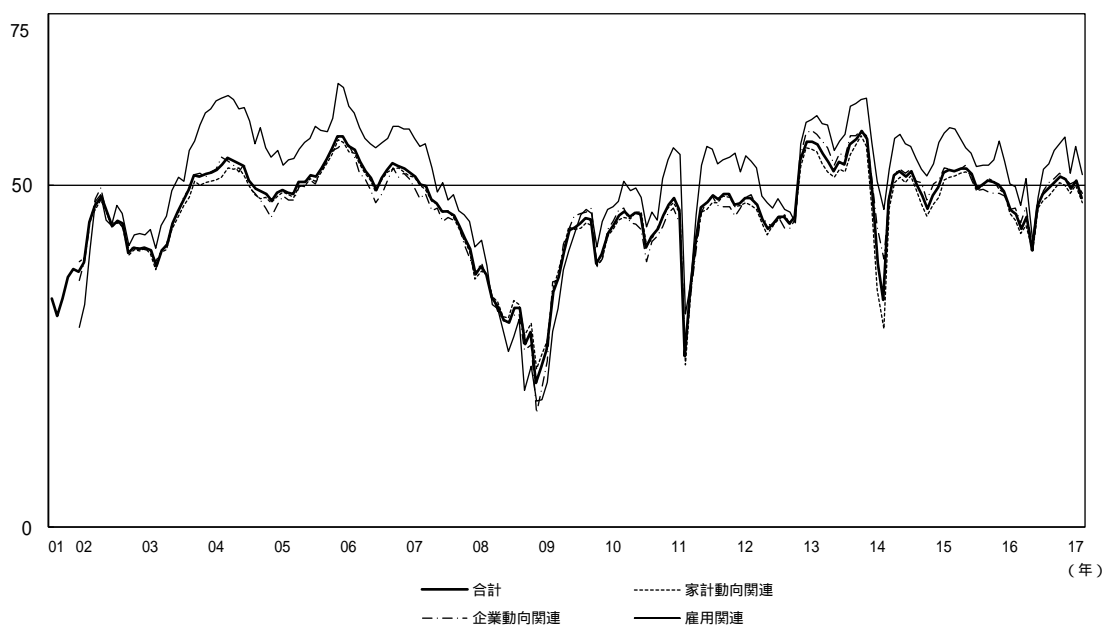
2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは、48.1となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが低下したことから、前月を2.5ポイント下回った。

図表3 景気の先行き判断D I (季節調整値)

(D I)	年 2016			2017			(前月差)
	月 10	11	12	1	2	3	
合計	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	(-2.5)
家計動向関連	49.3	50.3	49.9	48.8	50.0	47.4	(-2.6)
小売関連	49.2	50.2	49.8	48.2	49.3	45.6	(-3.7)
飲食関連	48.9	49.1	48.2	50.6	50.3	45.3	(-5.0)
サービス関連	49.9	51.7	51.1	50.3	51.6	51.3	(-0.3)
住宅関連	48.1	46.9	47.6	45.2	47.8	47.2	(-0.6)
企業動向関連	51.0	51.8	50.9	50.2	50.5	48.8	(-1.7)
製造業	51.6	53.0	51.9	51.6	49.8	49.3	(-0.5)
非製造業	50.7	51.0	50.2	49.1	50.7	48.2	(-2.5)
雇用関連	55.0	56.1	57.1	51.8	55.6	51.6	(-4.0)

(D I)

図表4 景気の先行き判断D I (季節調整値)



(参考) 景気の現状判断D I・先行き判断D I (原数値)

(現状判断)

図表5 景気の現状判断D I
(D I)

	年 2016			年 2017		
	月 10	月 11	月 12	月 1	月 2	月 3
合計	46.2	48.6	51.2	48.6	48.5	50.6
家計動向関連	44.1	47.1	49.6	47.0	46.6	49.7
小売関連	42.9	46.8	48.4	47.2	45.9	48.0
飲食関連	41.0	46.1	53.4	46.2	44.6	49.7
サービス関連	47.6	48.2	51.0	46.6	48.0	53.4
住宅関連	42.7	46.2	48.4	48.1	49.4	47.1
企業動向関連	48.8	50.8	53.4	49.7	50.5	50.6
製造業	49.0	52.3	53.9	49.6	49.7	50.4
非製造業	48.7	49.5	53.1	50.1	51.3	51.0
雇用関連	54.1	53.9	57.6	56.8	56.3	56.7

図表6 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く	D I
		なっている	なっている		なっている	なっている	
2017	1	1.6%	18.4%	56.9%	18.7%	4.3%	48.6
	2	2.2%	18.0%	55.9%	19.3%	4.6%	48.5
	3	2.0%	21.7%	56.5%	16.2%	3.6%	50.6

(先行き判断)

図表7 景気の先行き判断D I
(D I)

	年 2016			年 2017		
	月 10	月 11	月 12	月 1	月 2	月 3
合計	49.0	49.1	49.0	49.7	51.5	49.0
家計動向関連	47.9	47.7	47.6	48.9	51.2	48.8
小売関連	47.5	47.5	48.1	48.3	50.3	47.5
飲食関連	49.7	48.1	42.6	48.9	52.7	46.9
サービス関連	48.9	48.9	47.9	50.9	53.5	52.0
住宅関連	45.3	43.6	47.4	45.5	47.7	48.1
企業動向関連	49.8	50.5	50.3	50.7	50.8	48.5
製造業	50.0	50.4	50.3	51.9	50.1	48.8
非製造業	49.8	50.8	50.5	49.9	50.9	48.1
雇用関連	53.9	55.1	56.3	52.7	55.2	51.4

図表8 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	D I
2017	1	2.0%	19.7%	57.2%	17.6%	3.6%	49.7
	2	2.2%	23.2%	56.3%	15.2%	3.2%	51.5
	3	1.8%	17.7%	59.8%	16.4%	4.4%	49.0

II. 各地域の動向

1. 景気の現状判断D I (季節調整値)

前月と比較しての現状判断D I (各分野計)は、全国 11 地域中、7地域で低下、4地域で上昇した。最も低下幅が大きかったのは北関東、九州(4.2ポイント低下)で、最も上昇幅が大きかったのは沖縄(5.1ポイント上昇)であった。

図表9 景気の現状判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2016 10	11	12	2017 1	2	3	(前月差)
全国		48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	(-1.2)
北海道		48.7	51.6	49.2	51.0	47.8	48.0	(0.2)
東北		46.8	51.0	48.8	48.7	48.1	45.3	(-2.8)
関東		47.1	50.4	51.5	49.7	47.5	46.3	(-1.2)
北関東		46.8	48.7	50.7	46.9	48.6	44.4	(-4.2)
南関東		47.3	51.3	52.0	51.4	46.8	47.4	(0.6)
東京都		48.9	52.3	50.3	53.0	50.7	46.3	(-4.4)
東海		48.5	48.7	50.1	49.6	50.3	48.9	(-1.4)
北陸		50.4	52.5	54.5	50.1	49.8	50.2	(0.4)
近畿		47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	(-1.8)
中国		50.2	49.8	52.0	49.5	50.3	48.1	(-2.2)
四国		48.8	53.9	50.0	48.6	48.5	47.0	(-1.5)
九州		51.7	54.8	53.2	51.7	49.8	45.6	(-4.2)
沖縄		48.6	54.0	54.0	52.2	51.2	56.3	(5.1)

2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)

前月と比較しての先行き判断D I (各分野計)は、全国 11 地域中、10地域で低下、1地域で上昇した。最も低下幅が大きかったのは東海(4.5ポイント低下)で、上昇したのは北関東(2.4ポイント上昇)であった。

図表10 景気の先行き判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2016 10	11	12	2017 1	2	3	(前月差)
全国		50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	(-2.5)
北海道		49.9	52.5	51.0	50.2	49.6	48.1	(-1.5)
東北		49.3	49.1	49.0	47.3	48.7	47.4	(-1.3)
関東		49.3	50.3	49.9	48.3	49.0	48.4	(-0.6)
北関東		47.9	48.1	48.1	46.2	46.9	49.3	(2.4)
南関東		50.1	51.6	51.0	49.5	50.2	47.9	(-2.3)
東京都		52.1	53.9	51.4	52.3	54.9	48.1	(-6.8)
東海		51.2	51.0	51.0	48.1	52.3	47.8	(-4.5)
北陸		51.6	53.5	54.5	53.8	52.1	47.9	(-4.2)
近畿		48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	(-2.0)
中国		50.0	51.3	49.3	49.9	51.3	48.8	(-2.5)
四国		48.4	50.6	49.4	47.6	47.7	46.3	(-1.4)
九州		53.9	54.3	52.6	51.9	53.5	50.4	(-3.1)
沖縄		50.7	52.9	53.0	52.3	54.8	52.5	(-2.3)

(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)

(現状判断)

図表 11 景気の現状判断D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年	2016			2017		
	月	10	11	12	1	2	3
全国		46.2	48.6	51.2	48.6	48.5	50.6
北海道		46.2	47.1	47.0	49.1	47.8	50.2
東北		44.4	48.5	48.1	46.6	45.8	49.1
関東		44.6	47.5	50.7	48.2	46.5	49.3
北関東		44.7	46.0	49.0	45.0	47.2	46.8
南関東		44.5	48.3	51.8	50.2	46.1	50.8
東京都		46.0	49.3	50.9	51.2	48.1	49.8
東海		46.4	46.0	51.3	50.0	50.9	51.7
北陸		49.2	51.5	55.1	50.5	50.5	51.3
近畿		44.5	49.4	53.6	49.5	50.3	51.7
中国		48.1	47.7	52.0	47.4	49.4	51.5
四国		46.7	51.4	50.0	46.1	49.2	50.8
九州		50.7	52.9	53.2	48.8	48.2	49.5
沖縄		47.3	50.7	51.3	52.1	54.6	60.1

(先行き判断)

図表 12 景気の先行き判断D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年	2016			2017		
	月	10	11	12	1	2	3
全国		49.0	49.1	49.0	49.7	51.5	49.0
北海道		46.4	48.0	49.1	50.9	51.1	50.2
東北		47.7	47.0	47.8	48.5	50.0	48.2
関東		47.9	47.6	48.2	48.7	50.2	49.3
北関東		47.4	45.4	46.0	47.3	48.0	49.9
南関東		48.1	48.8	49.6	49.6	51.5	48.9
東京都		49.8	50.4	49.4	51.1	54.9	50.3
東海		49.4	48.2	48.8	48.6	52.8	48.0
北陸		50.0	51.3	53.0	54.2	53.7	49.5
近畿		49.2	51.2	50.0	50.1	51.3	48.8
中国		49.0	50.5	48.3	49.7	53.2	49.3
四国		47.5	48.6	47.2	49.4	48.6	45.7
九州		54.0	51.8	50.1	50.7	53.7	50.1
沖縄		50.0	52.0	53.2	53.5	55.9	54.1

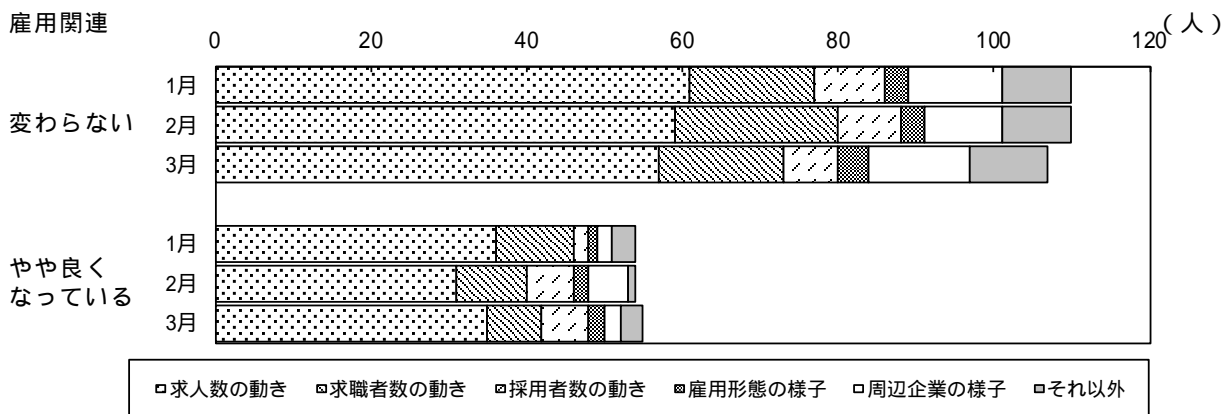
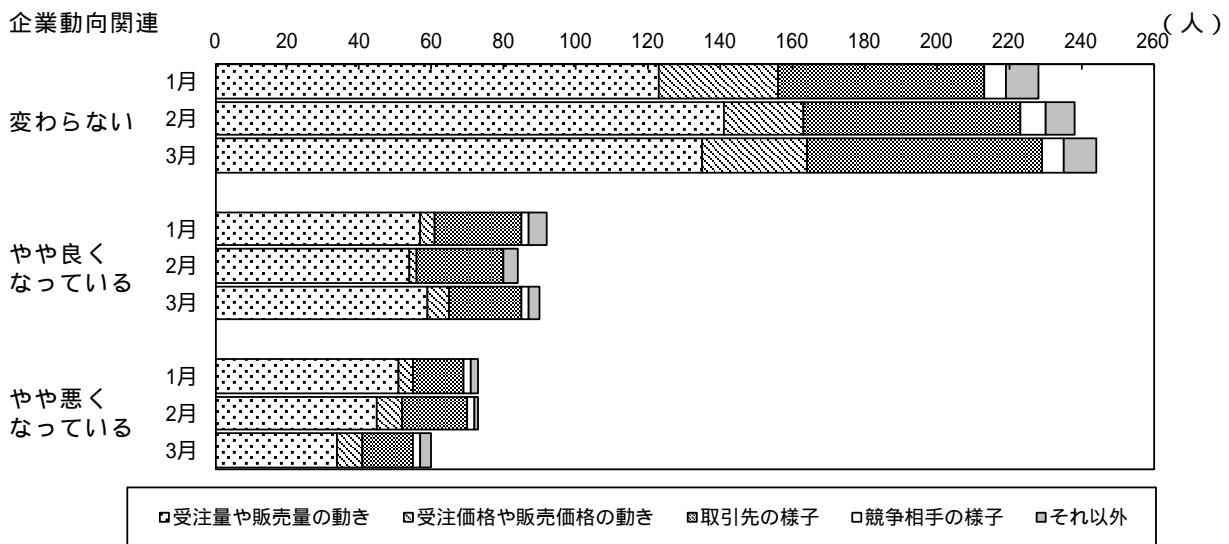
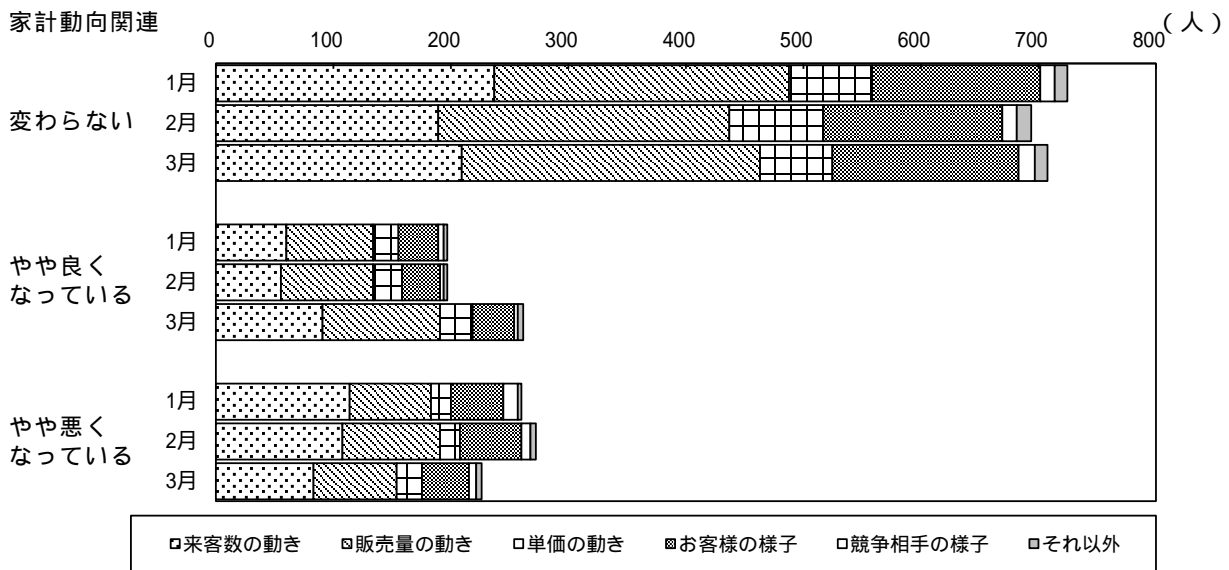
III. 景気判断理由の概要

全国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	特徴的な判断理由
現状	家計 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・今月は近隣地区のゴルフ場 20 か所で来場者数増加が目立っている(南関東 = ゴルフ場) ・春休みに入り、比較的学生など若い客が多くなっている。主要観光施設の駐車場も午後には満車になるところが多い(九州 = 観光名所)
			<ul style="list-style-type: none"> ・分譲マンション購入時の商談に要する時間が長くなってきており、客の歩留まり率も低下している(北海道 = 住宅販売会社) ・例年であれば新生活や移動需要でにぎわう時期であるが、少子化の影響や類似商材を扱う競合店が増えたことで苦戦が続いている。前年と比べ来客数、販売量がここ数か月で最も落ち込んでいる(中国 = スーパー)
	企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・県内において、1月の新設住宅着工戸数及び公共工事請負額が前年同月比プラスに転じており、設備投資は増加傾向にある。また、鉱工業生産指数は高水準を維持している(東北 = 金融業)
			<ul style="list-style-type: none"> ・燃料価格上昇の影響により、運賃の値上げを要請されている。大手運送会社も値上げしており、今後物流経費は増える。2年前にも運送会社が一斉に値上げに転じ、当社も大きな損失を被った経験があり、荷主に対し転嫁できるかが課題となる。荷主側も苦しい状況であるので、簡単にはいかない(九州 = 輸送業)
	雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の新卒採用について、周辺の大、中規模企業では積極的に募集を行っている。年度末の3月は多忙なため、運送、サービス業は求人をして、応募が極端に少なく、人手不足が続いている(北関東 = 求人情報誌製作会社) ・3月に入り、独自の企業説明会を実施する企業が昨年より増えている。今年度、採用予定数に満たなかった企業は、焦りにも似た気持ちで説明会を実施しているようだ。特に中小零細企業でこの傾向が見られる(四国 = 民間職業紹介機関)
先行き	家計 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・親会社が4月から新しい列車を走らせる。また、近隣県にある名刹の国宝が3月に新しくなり、沿線に新しい観光素材ができる。今からそれを目的に旅行を計画する個人客を中心とした流れが見えるので、良くなるとみている(南関東 = 旅行代理店)
			<ul style="list-style-type: none"> ・4月から3か月続く大型観光キャンペーンの重点販売地域に当県が入っている。また、新幹線の20周年記念などイベントが目白押しである。当ホテルにも好影響が表れることを期待している(東北 = 都市型ホテル)
			<ul style="list-style-type: none"> ・電気料金の値上げや為替変動等による輸入原材料の値上げが予測される。可処分所得の上昇は望めないため、余分なものは買わない傾向は、しばらく続く(北関東 = スーパー)
			<ul style="list-style-type: none"> ・トイレットペーパー等の紙類、サラダ油等の値上げが予定されている。今後、更に節約志向が高まりそうである(北陸 = スーパー)
	企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・地元自動車メーカーの国内生産は、4月以降も前年比でやや増加傾向にあることから、取引先の部品メーカーでも、受注・生産量共に堅調な推移が見込まれる(東海 = 金融業)
			<ul style="list-style-type: none"> ・石油価格高騰や円安で原材料価格が上昇しており、不安要素となっている(四国 = 化学工業)
雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・自動車の輸出台数は増加が見込まれるため、生産量は増加し、それに伴って雇用者数も増加する(東海 = アウトソーシング企業) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・依然として、求職者が集まらない状況が続いており、企業へのマッチングに苦労している(沖縄 = 人材派遣会社) 	

図表13 現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移

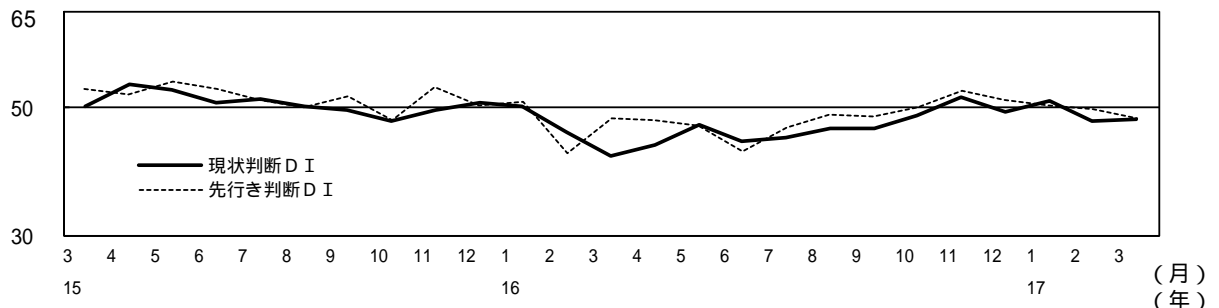


1. 北海道

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・4月からのタイヤの値上げがあるにもかかわらず、買い控えがみられる。ただ、売上は前年並みの見込みとなっている。新車が前年よりも売れているようであるが、中古車が売れておらず、車の保有台数の全体量が微減していることも影響している（自動車備品販売店）。
			・雪がなくなり、人の流れが変わった。北海道新幹線の開業1周年効果もみられる（商店街）。
	企業 動向 関連		・分譲マンション購入時の商談に要する時間が長くなってきており、客の歩留まり率も低下している（住宅販売会社）。
			・受注状況がやや低調であり、生産ラインに余力があるなど、景況感のやや悪い状況が続いている（食料品製造業）。
	雇用 関連		・公共工事は災害関連も含めて相応の発注がなされており、今後の予定分も合わせると、良好に推移することが期待できる。民間建築工事も引き続き引き合いが多くみられる（建設業）。
			・今まで一度も来校のなかった企業が、採用活動の挨拶に多数訪れている（学校[大学]）。
その他の特徴 コメント			・前年と比較して求人件数が1割程減少している（求人情報誌製作会社）。
			：先物オーダースーツの受注が前年比110%と比較的好調である。トレンドアイテムが稼働するなど、客の購買意欲が高まっている手ごたえがある（衣料品専門店）。
			：前年までと比べて、外国人観光客の動向に変化がみられ、小グループ客が中心になってきている（高級レストラン）。
先行き	家計 動向 関連		判断の理由
			・雑貨、食品、紳士服の動きに明るさがみられるものの、婦人服の下げ止まりがまだみえない。また、一部の高額品に動きが出てきているが、全体的な客単価の低下傾向が続いていることから、今後も変わらない（百貨店）。
	企業 動向 関連		・今後、パート社員の長時間雇用や時間給単価の上昇が見込まれるため、それに伴い消費動向も良くなると期待している（スーパー）。
			・あまりにも外部要因に起因する不安要素が多いため、ユーザーの消費行動が慎重であり、今後も景気は変わらない（家具製造業）。
	雇用 関連		・災害復興工事が本格的に始まり、商談、引き合いが増加していることから、今後の景気はやや良くなる（その他サービス業[建設機械リース]）。
その他の特徴 コメント			・人手不足が続いている飲食業や小売業などでは、求人を探えるような動きもみられるが、全体的に大きな動きはみられない（求人情報誌製作会社）。
			：外国人観光客の増加などを要因として、一定の好調を維持している。ただし、アジア圏からの観光客が主であるため、今後の海外情勢などの変化を注視していく必要がある（観光名所）。
			×：当地の漁の状況が悪く、回復する見込みもないことから、今後の景気回復は厳しいとみられる。競合店の出店が予測されることもマイナスである（コンビニ）。

(D I) 図表14 現状・先行き判断D I (北海道)の推移(季節調整値)



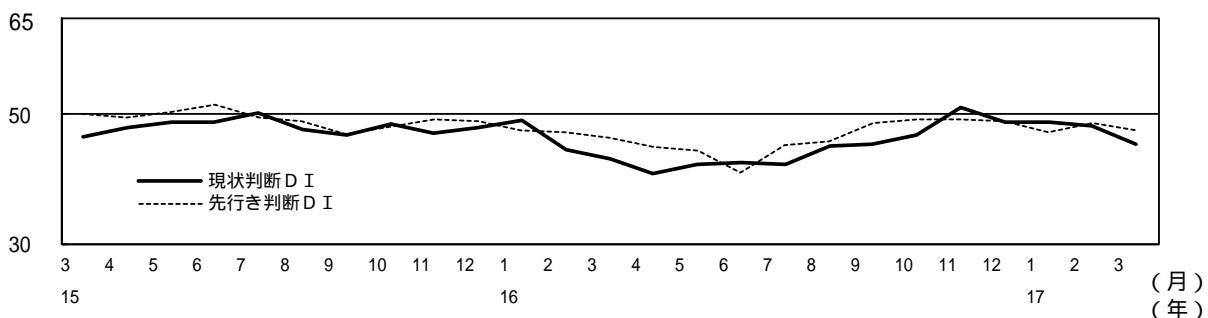
2. 東北

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ 来客数は前年比 99%、単価は前年比 101%と、どちらもほぼ前年並みで推移している。客の消費行動に変化はなく、特に景気が良いわけではないが、悪いというわけでもない(家電量販店)。
			・ 海外旅行は、ヨーロッパ方面とハワイ方面の予約が少しずつ入ってきており、回復傾向にある。また、春休みの影響でテーマパークを利用した関西方面の国内旅行も予約数を伸ばしてきている(旅行代理店)。
			・ 周囲に競合店がオープンしている。そのため、価格が下落傾向にあり、消費者の買い回りも散見されている(スーパー)。
	企業 動向 関連		・ 年度末のため、公共事業の設計変更契約などにより若干受注量が好転しているが、全体としては横ばいであり大きな変化はない(建設業)。
			・ 原因は明らかではないが、当地域を訪れる旅行者や出張者が増えていないため、販売量も増えていない(食料品製造業)。
	雇用 関連		・ 県内において、1月の新設住宅着工戸数及び公共工事請負額が前年同月比プラスに転じており、設備投資は増加傾向にある。また、鉱工業生産指数は高水準を維持している(金融業)。
		・ 今年度の求人実績は、前年度同時期の求人実績と比較して微増状態である(学校就職担当者)。 ・ 派遣登録者数が増加している。また、既存登録者との接触回数も増加している(人材派遣会社)。 ・ 従業員を休業させざるを得ない場合に利用できる、雇用調整助成金制度の利用や相談が増加している(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント			： エコカー減税の基準厳格化を前に駆け込み需要が発生している。また、3年前の消費税増税前の駆け込み需要で登録された車の車検時期となり、点検整備入庫も増加している(乗用車販売店) ： 宿泊、レストランは、個人需要、法人宴会需要共に回復傾向であり、前年並みまで戻している。ただし、プレミアムフライデーに関しては、特に反応はみられていない(都市型ホテル)。
先行き	家計 動向 関連		・ 客の動向、販売量、来客数をみても良いため、今月ほどではないものの、好調な状態が続くとみている(一般小売店[医薬品])。
			・ 4月から3か月続く大型観光キャンペーンの重点販売地域に当県が入っている。また、新幹線の20周年記念などイベントが目白押しである。当ホテルにも好影響が表れることを期待している(都市型ホテル)。
	企業 動向 関連		・ 景気の先行きが不透明であり、取引先は様子見状態が続くとみている(広告代理店)。
			・ 復興需要、復興対策も一段落し、売上の前年維持は難しくなっている(出版・印刷・同関連産業)。
	雇用 関連		・ この先の仕事量も変わらない見込みである(アウトソーシング企業)。
	その他の特徴 コメント		

(D I)

図表15 現状・先行き判断D I (東北)の推移(季節調整値)



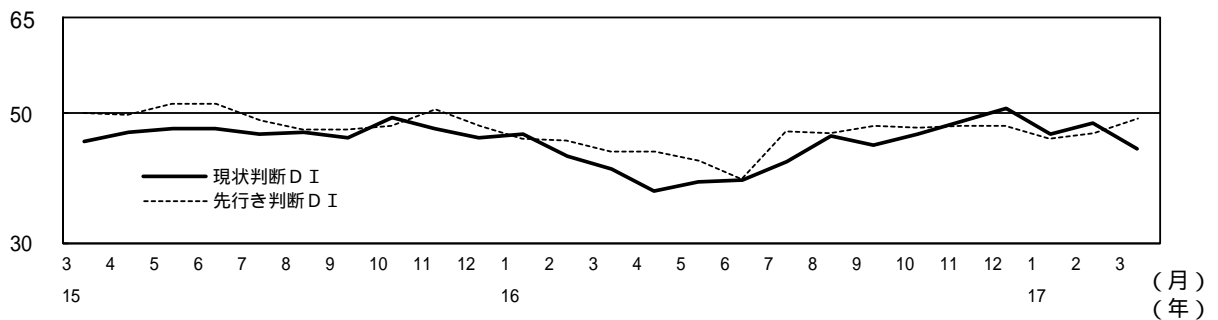
3. 北関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・新入学、新生活の季節ではあるが、これといって売上に影響はない。液晶テレビの買換えが徐々に出てきているが、修理費用が高額なため、必要に迫られての選択である。相変わらず消費に動きはみえてこない(一般小売店[家電])
			・季節や期の変わる時期は、集客目的で競合店との価格競争など単価が下落傾向となるが、例年以上に客は必要な物以外の購買はしない(スーパー)
			・全体的な景気は変わらないが、都内など中心部の景気等に引きずられて、少しは良くなっているのではないかと推測する(コンビニ)
	企業 動向 関連	×	・受注にムラが多く、少量、短納期で、安定した仕事は少ない。それでもなんとか、仕事量は確保できている(電気機械器具製造業)
			・国内の宝飾品マーケットは冷え込んでいる。展示会でも来場者、購入者は少ない。卸のルート販売も不振で、先が見えない(その他製造業[宝石・貴金属])
	雇用 関連		・建設機械関連を中心に、じわじわと増産の動きが広がりがつつある。また、業種を問わず、新規案件の引き合いが確実に増加している(一般機械器具製造業)
		・来年度の新卒採用について、周辺の大、中規模企業では積極的に募集を行っている。年度末の3月は多忙なため、運送、サービス業は求人をして、応募が極端に少なく、人手不足が続いている(求人情報誌製作会社)	
	その他の特徴 コメント	・月間有効求人数が、7か月連続で前年を上回っているのに対し、月間有効求職者数は、20か月連続で前年を下回っている。2月の新規求人では、建設、運輸、卸小売、医療福祉業で前年を上回っている(職業安定所)	
		：自動車整備は、車検対象台数の拡大で今月に入り来客数が伸びている(その他サービス[自動車整備業]) ×：公共工事が売上の95%を占めている建設業である。現政権のもと3年間順調に推移してきた公共工事であったが、今期は様変わりしてしまっている。公共工事発注が前年比96%ではあるものの、市町村発注をみると前年比79%と20%以上も減っている、地方の業者への影響は大きい。当社の受注額も前年比15%減なので、今期決算が大変不安である(建設業)	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・当地域の自動車メーカーは、輸出が好調で大変忙しく、地域経済にとっては嬉しいが、末端にはなかなか経済効果が及ばないので、今一つ喜べない(乗用車販売店)
			・昔のように景気が良いから売れるという時代ではない。余分な物はあまり売れないが、要るものだけは必ず買ってくれる。当店もお陰様で、学校に必要な物だけは、きちんと売れているので、その点とても助かっている(商店街)
	企業 動向 関連		・この先の受注、引き合い状況から予想すると良い方向に向かうとは考えにくい。現状の推移を想定している(化学工業)
			・新規開拓案件が何件か立ち上がり、従来の仕事も回復傾向にあることから、売上のペースを固めながら数字の上振れが期待できる(一般機械器具製造業)
雇用 関連		・相変わらず求人職種の偏りがあり、全体的に景気が底上げされているとは考えにくい。来月には年度が切替わり、間接業務の求人が増えてくれば、景気の回復傾向がみられるといえるのではないかと(学校[専門学校])	
その他の特徴 コメント		：英国でのワインプロモーション活動や県産ワインの高品質化、また、消費拡大に向けた事業推進と官学の積極的な支援もあって、今後の伸びが期待できる(食料品製造業) ：電気料金の値上げや為替変動等による輸入原材料の値上げが予測される。可処分所得の上昇は望めないため、余分なものは買わない傾向は、しばらく続く(スーパー)	

(D I)

図表16 現状・先行き判断D I (北関東)の推移(季節調整値)



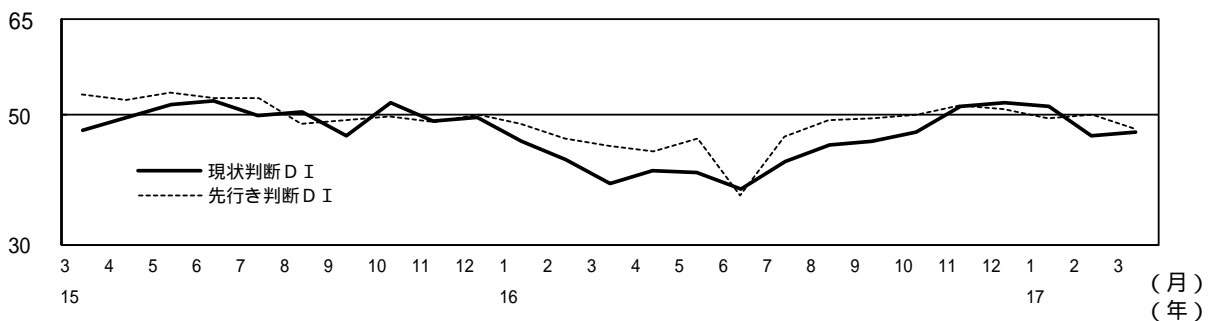
4. 南関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連		・衣料品は依然として苦戦している。雑貨関連は衣料品に比べ動きが良い。高額品は宝飾関連が比較的堅調である(百貨店)。
			・ここ数か月は昼間の利用が好調で、無線オーダー、駅の利用共に仕事ができしており、この状況は当分続く。夜、飲み屋からまとまった台数のオーダーがあり、中距離の利用客も増えてきている(タクシー運転手)。
			・3月は文具の繁忙期に入っていく月にもかかわらず、学用品を中心としたまとめ買いがあまりなく、客単価及び売上が前年を割っている。また、春の売出しを行わなかったことが影響したのか、来客数も伸び悩み、前年を大きく下回っている(一般小売店[文房具])。
	企業動向関連		・年度末でスポット案件が増えることを予測していたが、思ったほどなく、売上は伸びていない(輸送業)。
			・官庁関係、大手企業の動きが前年2月より良かったため、売上が伸びている(出版・印刷・同関連産業)。
	雇用関連		・得意先の忙しさも一段落して落ち着いてきている。当社の得意先の中で忙しいのは一部だけで、多くは3か月前と比べて変化がない(金属製品製造業)。
		・製造業の取引先では、継続的に開発エンジニアが不足しており、開発のアクセルは踏み続けられている(人材派遣会社)。	
その他の特徴コメント			・前年に比べ、採用広告のダイレクトメールの数が増えている。就職イベントの開催数も多い(民間職業紹介機関)。 ：今月は近隣地区のゴルフ場20か所で来場者数増加が目立っている(ゴルフ場)。 ：天候に左右される商売だが、全体的に来客数が伸びない。近隣商圏への出店が多く、飽和状態にあるため、来客数が減少傾向である(コンビニ)。
先行き	分野 判断		判断の理由
	家計動向関連		・ブラジルの鶏肉偽装問題、宮城、千葉の鳥インフルエンザの発生等、品質への目は一層厳しくなってくる(スーパー)。
			・春物の不発が大きく、体力のないメーカーは今後の商品に影響が出るだろう。商品が作られなければ、状況は悪化するのではない(百貨店)。
	企業動向関連		・気温もなかなか上昇してこないため、景気も今のところ上昇期待が薄い(食料品製造業)。
			・新規受注ばかりでなくレギュラー受注もなくなるようで、先行きが全く不透明である。取引先は軒並み発注を控える傾向にある(その他サービス業[映像制作])。
雇用関連		・有効求人倍率は依然として高水準を維持している。また、正社員求人割合も上昇している(職業安定所)。	
その他の特徴コメント			：親会社が4月から新しい列車を走らせる。また、近隣県にある名刹の国宝が3月に新しくなり、沿線に新しい観光素材ができる。今からそれを目的に旅行を計画する個人客を中心とした流れが見えるので、良くなるとみている(旅行代理店)。 ：現況が好転する材料がないため、現状維持ではないか。前年同期と比べ燃料価格が15~20%上昇しており、経費の負担増が危惧される(輸送業)。

(D I)

図表17 現状・先行き判断D I (南関東)の推移(季節調整値)



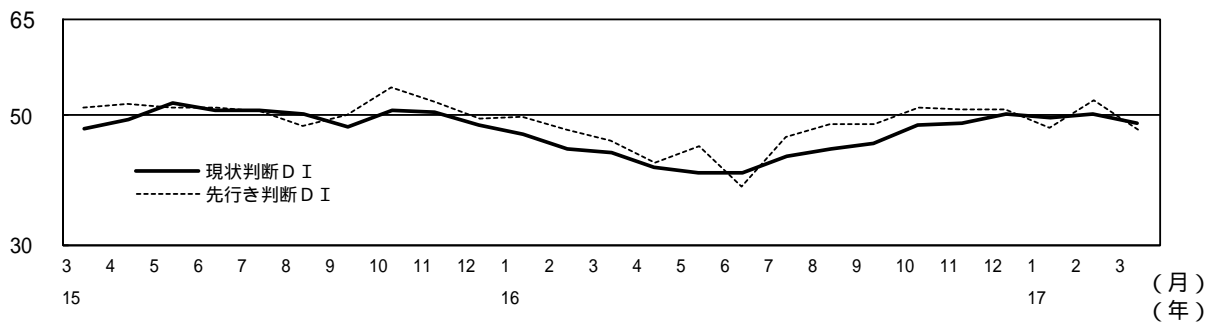
5. 東海

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ 3月は歓送迎会等の多い月だが、食事会も少ないようで、相変わらずタクシーの利用客は少ない(タクシー運転手)。
			・ 例年売れる時期ではあるが、前年に比べても良い。問い合わせも多く、今月は良い。競争相手の様子や広告等をみても活気がある。オークション等での価格も高く、販売台数も多い(乗用車販売店)。
			・ 年度末は、例年であれば注文が増える時期であるが、今年はそういった動きがない(通信会社)。
	企業 動向 関連		・ 当社も競合他社も忙しく、全体的に景況感是不変(その他非製造業[ソフト開発])。
			・ 客からの発注量は堅調で、3か月前と比べると売上は10%ほど増加している(輸送用機械器具製造業)。
	雇用 関連		・ 雇用、経済情勢の安定で、事業主都合による離職者や期間の長い離職者等は減少が続いているが、求人・求職状況に、大きな変化はみられない(職業安定所)。
			・ 企業では、新年度を目前に、次年度向けの採用意欲が高まっている。人材確保が難しくなっているため、派遣採用時の時給もやや上昇している(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント			：店頭での客の様子からは、3か月前と変わらず、あまり良くない様子がうかがえる(旅行代理店) ：仕事量は安定しているが低予算の案件が多いため、受注単価は前年比で15%ほど下落している(その他住宅[住宅管理])。
先行き	家計 動向 関連		・ 客の話題では明るいニュースもイベント等もなく、生活防衛意識が強まっており、現状から変わらない(美容室)。
			・ 4月以降にサラダ油や小麦粉の価格が上昇するとの情報がある。今後ニュース等でこの話題を目にする機会が増えると、消費者心理へのマイナスの影響が懸念される(スーパー)。
	企業 動向 関連		・ 需要は減少しており、企業業績としては伸びしろがないことから、先行きも横ばい傾向である(食料品製造業)。
			・ 地元自動車メーカーの国内生産は、4月以降も前年比でやや増加傾向にあることから、取引先の部品メーカーでも、受注・生産量共に堅調な推移が見込まれる(金融業)。
	雇用 関連		・ 年度が替わり、求人活動は一段落となる。求職者も4月を目途に就職活動する人が多いため、転職市場は動きが穏やかになる(人材派遣会社)。
	その他の特徴 コメント		

(D I)

図表18 現状・先行き判断D I (東海)の推移(季節調整値)

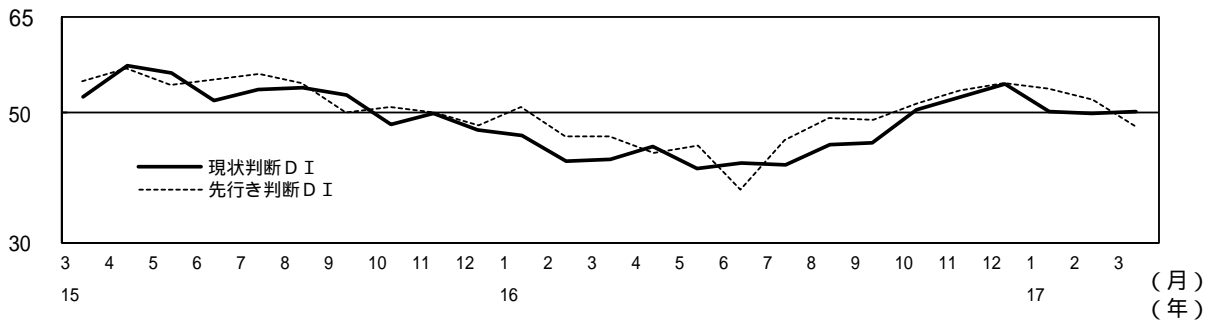


6. 北陸

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ゴ-ルデンウィ-クまでの予約を含めて大きな動きがない(旅行代理店)
			・3月前半は、内祝いや返礼品、仕事始めの準備等で需要があり販売量が伸びた。しかし、来客数は少なく目的買いが目立った。3月後半は売上が伸びず、厳しい状態で終わった(百貨店)
			・3月の販売量は前年同月比108%の見込みである。平成28年12月の販売量が前年同月比98%であったので、3か月前と比較して上向きである(乗用車販売店)
	企業 動向 関連		・米国の新大統領就任による影響は、しばらくは現状のまま推移すると考える。燃料費等の経費も、極端には高騰の影響はなく、このままの状態推移すると考える(輸送業)
			・欧州と国内の受注量が昨年より増えている。また、取扱製品の市場での評価が上がってきている(一般機械器具製造業)
	雇用 関連		・取引先の建設会社の工事受注が低迷している。また、最近になって資材の価格がじわじわと高くなっている(金融業)
		・求人広告は前年比でほぼ100%の売上である。件数は少し減ったが、正社員の比率は上がった。一進一退を繰り返しながら、求人の波は続いている。恒常的に求人需要があるので安定していると言える(新聞社[求人広告])	
その他の特徴 コメント			・求人広告件数が、1回の発行で50件ほどアップした(求人情報誌製作会社)
			：常に端末を購入希望する客が途切れず、平日、週末共にほぼ満席状態となっている。販売数は比例して伸びている。要因としては、学生需要に加え、スマートフォンの大幅値下げによって新規契約の客が増えているためである(通信会社)
			：送別会の利用が例年並みに推移している。卒業祝いや合格祝い等の家族のイベントが、例年より若干単価が低い。個人客の先行きを不安視している様子が見える(高級レストラン)
先行き	分野 判断		判断の理由
	家計 動向 関連		・イベント日の天気の良い悪しによって売上が増減する。劇的に変わる要素、良くなる要素も悪くなる要素も全く見あたらない(コンビニ)
			・トイレットペーパー等の紙類、サラダ油等の値上げが予定されている。今後、更に節約志向が高まりそうである(スーパー)
	企業 動向 関連		・取引先に聞くと、今後3か月は大体堅調な状況が続くということである。しかし、その後の見通しについては、中小企業段階では分からない。建設業では、公共工事等が以前のレベルになかなか戻らず、見通しが厳しい。また、小売業では、消費者は当然安い商品に流れるため、品数の割には売上につながらない状況が続いている。全体的には変わらないのではないかと考える(税理士)
			・店舗や事業所の閉鎖跡でも買手は早く見つかる。会社設立等の開業関係の依頼が多い(司法書士)
	雇用 関連		・新卒採用の時期で、しばらく新たな需要は見込めない(人材派遣会社)
その他の特徴 コメント			：先月からスタートしたプレミアムフライデーで、非常に客の動きが良い。来客数、購入単価共に前年を大きく上回っている。土日の実績には影響が出ていないので、効果が期待できる(家電量販店)
			：近隣に大型商業施設がオープンして、覚悟はしていたがやはり影響が出ている。数か月は影響を受けるのも仕方ないと落胆している(商店街)

(D I) 図表19 現状・先行き判断D I (北陸)の推移(季節調整値)

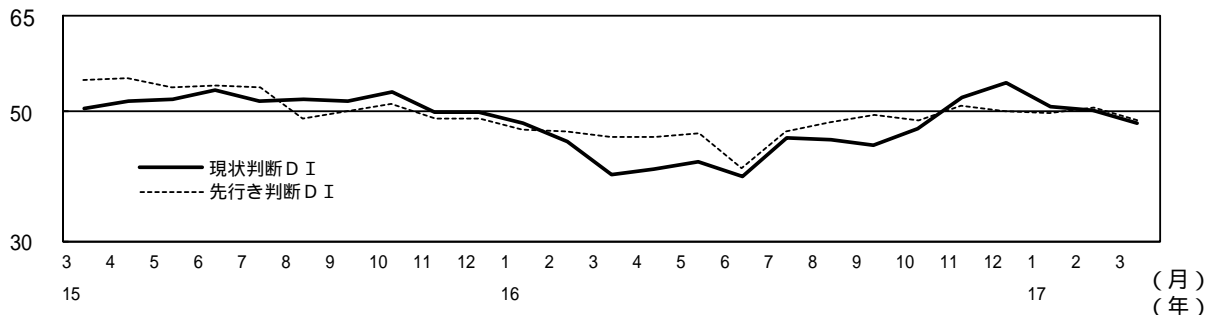


7. 近畿

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連		・ 今月も衣料品の苦戦傾向が続いている。やや肌寒く感じる気候の影響もあり、春物の動きが鈍い。卒業や入学関連も、間近になって準備する傾向が更に強まっている。一方、雑貨は堅調な推移であり、高額品にも動きが出ている（百貨店）。	
			・ 物販の売行きや周辺施設への来場者数などが、若干であるが良くなってきている（その他レジャー施設 [イベントホール] ）。	
			・ 直営店及びフランチャイズ店の来客数の減少が、数字で明らかになっている。取引先の小規模飲食店の閉店が、3月は10店舗ほど報告されている（一般小売店 [珈琲] ）。	
	企業 動向 関連		・ 小物の受注は順調であるが、大きな金額の商談は鈍い。全体としては、それほど活発ではないが、不調でもない（一般機械器具製造業）。	
			・ 主力の取引先である製薬メーカー関係からの受注量が、全体的に減っている。特に、開発部からの発注が激減している。開発拠点が海外に移転している影響も大きい（出版・印刷・同関連産業）。	
			・ 気温が上がってきて、少しずつ春物衣料の定価商品に動きが出てきている。売上の前年比が回復してきたテナントも多くなっている（広告代理店）。	
	雇用 関連		・ 大手企業は求人数がやや減少したが、中小企業を中心に採用意欲が強く、トータルとしては、ややプラスである（民間職業紹介機関）。	
			・ 近畿の有効求人数は原数値ベースで過去最多となり、近畿の全府県で前年に比べ増加している。新規求人でも、全ての府県で製造業が増加しており、金属やプラスチック、電子部品、電気機械器具などの増加が目立つ。建設業や運輸業も堅調である（職業安定所）。	
	その他の特徴 コメント			： 年度末で、転居や入居の数が増えたのに連動し、加入契約が増加している。特に、インターネットサービスは堅調である（通信会社）。 ： 商品の販売数などに大きな変化はないが、当社の主な商品の原材料価格が高騰しており、利益率の圧迫につながっている（その他専門店 [食品] ）。
	先行き	家計 動向 関連		・ 来客数は増えているが、平日と土日、祝日の売上の差が激しい。平日の悪化を休日で穴埋めしており、トータルとしてはプラスマイナスゼロというのが実情である（観光型ホテル）。
			・ コンビニの軽飲食店としての使い方が定着しつつあるため、食品や飲料の売上はまだ増えることが期待できる（コンビニ）。	
企業 動向 関連			・ 販売量、受注量の動きは横ばいであるが、雰囲気的には少し重い。新製品の試作状況が芳しくなく、以前の試作の量産が立ち上がるという内示は出ているものの、出足は遅れそうであるため、しばらくは現状維持が続く（プラスチック製品製造業）。	
			・ これから売れなくなる時期に入るほか、新商品もないため、客を引き寄せることが難しくなる（輸送業）。	
雇用 関連			・ 売り手市場の状況であり、損害保険業界のほか、ニッチな市場では慢性的に人手不足となっている（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			： 先の予約状況を分析すると、宿泊の客室単価の伸び悩みや、婚礼、宴会の受注減がみられる（高級レストラン）。 ： 春の行楽や、ゴールデンウィークに伴う消費が増えるため、家電の消費は低調になる（家電量販店）。	

(D I) 図表20 現状・先行き判断D I の (近畿) 推移 (季節調整値)

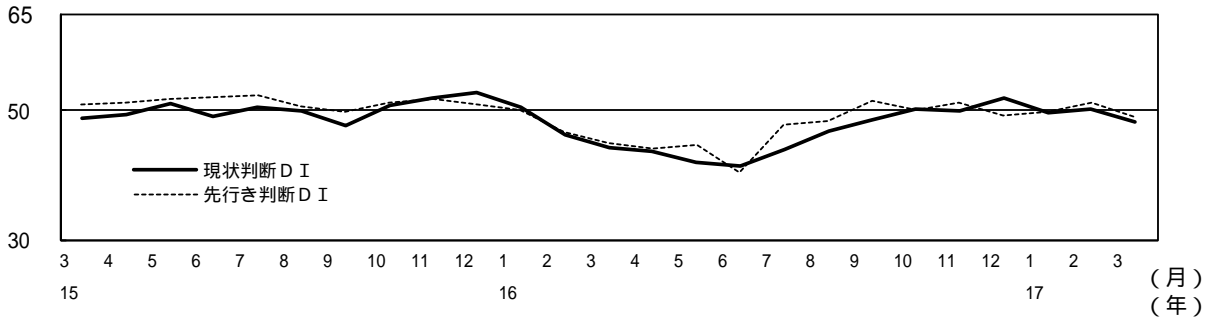


8 . 中国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・ 来客数は増加しているが、すぐに購入しない(家電量販店)。
			・ 年度末で引っ越し等による新規加入増が続いている(通信会社)。
			・ 例年であれば新生活や移動需要でにぎわう時期であるが、少子化の影響や類似商材を扱う競合店が増えたことで苦戦が続いている。前年と比べ来客数、販売量がここ数か月で最も落ち込んでいる(スーパー)。
	企業 動向 関連		・ 製造業を中心にアウトソーシングやモノのインターネットに関する意識が高まっているものの、具体的な検討に進むケースが少なく他社事例を待っている状況にある(通信業)。
			・ 前年と比較して取引先の様子が好転しており、受注数が増えている(電気機械器具製造業)。
雇用 関連		・ 11月と2月を比較すると、水揚げ数量は115t、水揚げ金額は4,300万円の減少である。減少原因は沖合底引き網漁と中型まき網船漁、イカ釣り船、定置網漁の減少である(農林水産業)。	
		・ 有効求人倍率は高水準で推移しており、当県では大学生の就職内定率が1995年の調査開始以来最高を記録している。企業も会社説明会の回数を増やしたり前倒ししたりするところが多く、採用意欲は非常に高い(新聞社[求人広告])。	
		・ 例年どおり年度末に向けて契約満了になる在職者の求職申込が増える時期なので、3か月前と比較して新規求職者数は33.6%増加している。また、事業所倒産などの話はない(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント			： 春物が動き始めて婦人服の売上が伸びている。衣服よりもバッグや靴などの雑貨アイテムの動きが好調で、美術品や宝飾品などの高額商品の動きも良い(百貨店)。 ： 悪天候と低温の影響で人の動きが悪い。歓送迎会で夜の客に動きはあるが、例年より良いわけではない(タクシー運転手)。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・ 景気回復を実感できない所得層が多い。一部の建築土木関連企業で手取り給与が上昇しているが、地域全体としてはまだ景気に明るさがない(一般レストラン)。
			・ 転勤がほぼ終わり、土地を所有していない客の動きが活発になってくる(住宅販売会社)。
	企業 動向 関連		・ 4月より鉄原材料価格が上がるためコスト増となるが、受注が微増の見込みなので収益面では現状と同水準となる(金属製品製造業)。
			・ 戦力不足と労働時間管理の問題が大きく影響してきて、客の動向以前の問題として来年度は厳しくなる(輸送業)。
雇用 関連		・ 季節ごとの採用繁忙期で雇用ニーズはあるが、季節要因以外に特出した要因がないため、例年どおり推移する(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント			： 一時的な踊り場から脱し、当初期待していたオリンピックに向けた動きが出てくる(鉄鋼業)。 ×： 白物家電等といった以前であれば新生活には欠かせなかった商材の販売量が年々減少している。背景には家具家電付きの賃貸物件の普及やリサイクル店の増加などの市場環境の変化がある。それに対して既存店舗ではその変化に追い付けていない現状がある。品ぞろえや戦略の転換も容易ではなく、先行きは厳しいと予測せざるを得ない(スーパー)。

(D I) 図表21 現状・先行き判断D I (中国)の推移(季節調整値)

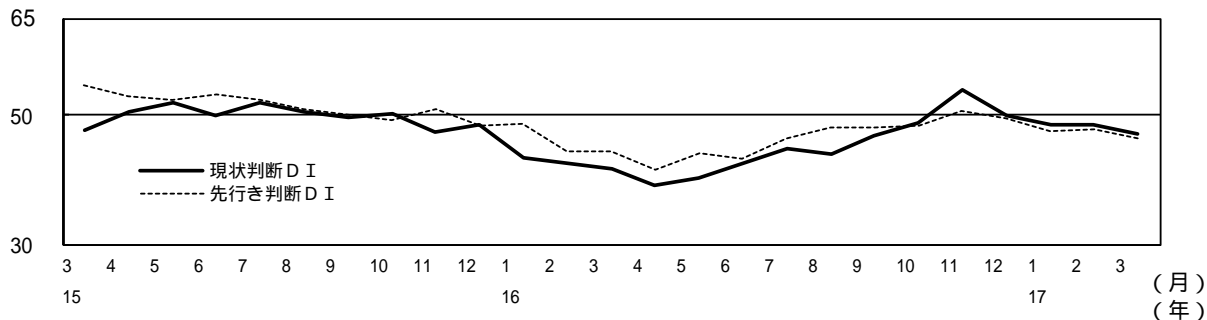


9 . 四国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連		・天候や気温に恵まれ、企業努力の甲斐あって、来店客数と客単価が前年を上回っている。景気が良くなっているわけではない(コンビニ)。	
			・景気が良くなったわけではないが、前年より来客数(宿泊数・歓送迎会等)が増えた(観光型旅館)。	
			・時代とともに消費行動が大きく変化している。百貨店の低迷がその象徴であり、ネット利用者の急増は今後、しばらくはとどまることはない。旧来の商店街や個店専門店は、この時代変化に対応できない(商店街)。	
	企業 動向 関連		・顧客の試算表、決算書をみると、ほとんどの企業が前年と変わらない状況が続いている。一部、道後のホテル等は若干上向いているようだ(公認会計士)。	
		×	・受注・売上が減少し、受注・販売価格も低下傾向にある。さらに主要材料のスクラップ価格が上昇しており、採算は悪化している(鉄鋼業)。 ・引越し繁忙期なのに会社の方針で、長時間労働対策として引越しの受託件数を絞っている。臨時便等の発送量も激減している(輸送業)。	
	雇用 関連		・平成29年度卒業生への採用活動が解禁となり、求人数が急速に増大している。加えて、平成28年度卒業生への求人も引き続き見られる(学校[大学])。	
			・3月に入り、独自の企業説明会を実施する企業が昨年より増えている。今年度、採用予定数に満たなかった企業は、焦りにも似た気持ちで説明会を実施しているようだ。特に中小零細企業でこの傾向が見られる(民間職業紹介機関)。	
	その他の特徴 コメント			：加入数は増加しているが、季節要因が大きく影響していて前年と変わらない(通信会社)。 ：今年に入って青果物卸売市場は、数量は前年並みかやや減少しており、単価安の傾向が続いている。例年3月は需要が増え、荷動きが活発化する時期なのだが、今年は動きが鈍く、この時期としては低調な販売が続いている。また、花冷えで花見等の行楽需要も増えそうにない(農林水産業)。
	分野		判断	判断の理由
	家計 動向 関連			・5月の大型連休には県外客が多くなり、飲食の頻度も増え、ホテルまでの足として乗車機会が多くなる。梅雨に入れば早く帰宅するため、夜の街は静かになる。総じて、売上は横ばいと見込む(タクシー運転手)。
			・競合店出店から一年が経過し、流動客も定着しつつある。ニーズに沿った媒体セール・顧客づくりを実施して景気を盛り上げていく(家電量販店)。 ・競合店の出店の影響が続く、消費者の買いまわりは更に激しくなる。同じ商品なら少しでも安い店へと流れが顕著になる(スーパー)。	
企業 動向 関連			・足元の運転資金需要動向に大きな変化はない。また、設備資金の需要動向についても目立った動きが見られない。取引先の景況感では慎重な見方が続いている(金融業)。	
			・石油価格高騰や円安で原材料価格が上昇しており、不安要素となっている(化学工業)。	
雇用 関連			・来年卒業予定者の新卒採用に向けて地元企業も動き出しているが、学生の大手企業志向等により苦戦している。求人難・人手不足から景気は横ばいとなる(求人情報誌)。	
その他の特徴 コメント			：受注残で当面の台数は確保できるものの、景気が上向く見通しが無い(乗用車販売店)。 ×：4月に大型ショッピングモールができる影響で、当店も営業の継続が難しくなる(一般小売店[乾物])。	

(D I) 図表22 現状・先行き判断D I (四国)の推移(季節調整値)

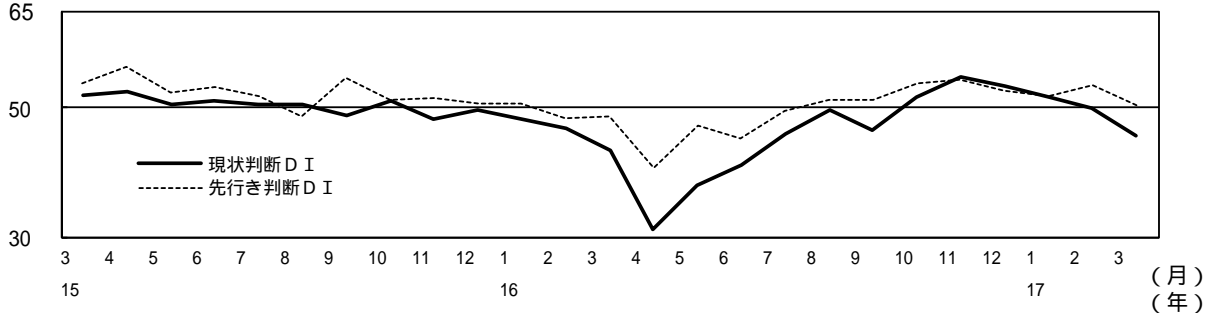


10.九州

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連		・店舗の前で行われていた工事が終わり、工事関係の客が減った。飛び込み客が先月より増えている。客単価に関してはプラス一品の売上がまだ少ない(コンビニ)。	
			・思った以上に稼働率が悪く、予約状況も悪い。異動時期でもあり夜の繁華街もどちらかという悪い(タクシー運転手)。	
			・当県は暖冬で、冬場の景気があまり良くなかった。ただ、その反動で3月に入ってテレビを除く全商品がそれなりの数字を稼いでいる。回復基調にある(家電量販店)。	
	企業 動向 関連		・年度末になり例年どおり、駆け込み売上はあるが、受注については勢いはない(金属製品製造業)。	
			・車載関連、医療関連の動きが大きく影響している。受注量は増加傾向である(電気機械器具製造業)。 ・燃料価格上昇の影響により、運賃の値上げを要請されている。大手運送会社も値上げしており、今後物流経費は増える。2年前にも運送会社が一斉に値上げに転じ、当社も大きな損失を被った経験があり、荷主に対し転嫁できるかが課題となる。荷主側も苦しい状況であるので、簡単にはいかない(輸送業)。	
		×	・予算は確定したが、発注までに時間が掛かる。特に地方行政では発注が遅いため、早期の発注を希望する。地方は民間工事が非常に少ないので官公庁の発注に依存している(建設業)。	
	雇用 関連		・新規求人数全体が、前年比、前月比共に伸びている。特に電気機械器具や食品の製造業、建設業の伸びが大きい。景気の動向というよりも、熊本地震の復興に伴うものである(職業安定所)。	
			・直接雇用の求人数が前月に引き続き増えている。既存の派遣社員の4月からの料金改定の申し入れをした結果、予想以上に多くの企業が改定してくれた(人材派遣会社)。	
	その他の特徴 コメント			：春休みに入り、比較的学生など若い客が多くなっている。主要観光施設の駐車場も午後には満車になるところが多い(観光名所)。 ：中小企業は全業種で人手不足であり、受注等の増加に対応できない状況が続いているため、状況は変わっていない(金融業)。
	先行き	家計 動向 関連		・4月以降、客数は増えているが、新年度からのさまざまな値上げによる利用控えや、介護保険制度の改正による単価ダウンにより、売上が伸び悩む(その他サービスの動向を把握できる者[介護サービス])。
			・夏物実売期に入り、シークレットセールスタート等で来客数も今よりは増える(衣料品専門店)。	
企業 動向 関連			・現時点もやや良い生産台数で今後も安定した計画で展開されているため、やや良い数量で変わらない(輸送用機械器具製造業)。	
			・受注予算の見込みが前年度よりも多く、緩やかではあるが上昇傾向である(通信業)。	
雇用 関連			・全体求人数は増加しているが、料金の値上げが厳しいので、売上増にはなるが、利益面では期待できない(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント			：前年は熊本地震の復興支援による需要が非常に高まり単価も上がったが、今年の4～7月はその反動で、減少している(都市型ホテル)。 ×：飲食店にとって稼ぎ時である週末の来客数が減少している。特に法人利用の減少が大きい。前年からずっと景気向上の兆しが無い(スナック)。	

(D I) 図表23 現状・先行き判断D I (九州)の推移(季節調整値)

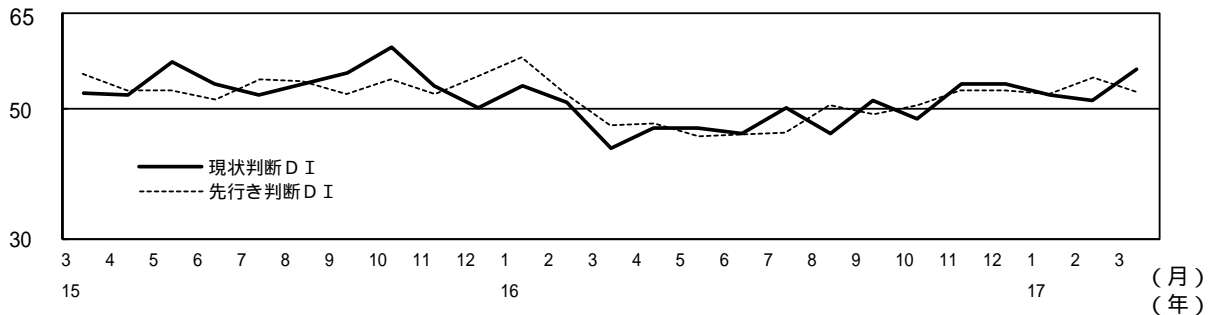


11. 沖縄

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・時期的なものもあるが、中古車の受注が好調である。プレミアムブランドの受注状況も安定している(乗用車販売店)。
				・客単価がアップしている(ゴルフ場)。
				・ただでさえ求人難であるのに加え、飲食業はブラックなイメージがついているため、給与を高め提示しても全く面接に来ない。知り合いの人気居酒屋店は求人のめどが立たず廃業した(その他飲食[居酒屋])。
	企業 動向 関連			・年度末であったが特に大きな動きは無く、公共、民間向け出荷は前年比横ばいとなった(窯業・土石製品製造業)。
				・受注価格が、3か月前に比べて伸びている(建設業)。
	雇用 関連			・2018年度の新卒採用活動の本格化により求人が増え、景気の盛り上がりが見える。また、雇用形態も正社員雇用の割合が増加している(学校[専門学校])。
			・3月の週平均件数は1,129件だった。前年12月と比較するとプラス284件と、大幅に増加した(求人情報誌製作会社)。 ・3月期末決算に伴う企業からの求人依頼は、特段増えてはいない。求職者の動きも予想よりもゆったり感がある(人材派遣会社)。	
	その他の特徴 コメント		: 3月とあって県内容は忙しそうにしており、観光客が多かった。来月からは県内容が来ると見込んでいる(衣料品専門店)。 : ほぼ前年並みの予約状況となっている。同業他社のいわゆる格安レンタカー会社は好調と聞いており、観光客の入込自体は好調だと推測される(その他のサービス[レンタカー])。	
先行き	家計 動向 関連			・免税売上の推移や食品売上の推移が上向き傾向であることから、やや良い方向で推移すると予測している(百貨店)。
				・来客予約数の動きから、やや良くなると判断した(観光名所)。
	企業 動向 関連			・日頃口にする食料品の消費動向が低価格指向になりつつある気がする(食料品製造業)。
				・インバウンド効果により、いくつかの 카테고리의取扱貨物が若干増えている。また、数か月前から荷主に要望している受託料金の改定が徐々に進んでいる。従業員の待遇改善を並行して進めることで、生産性も向上しつつある(輸送業)。
	雇用 関連			・求人数が増加する(求人情報誌製作会社)。 ・大卒求人が解禁され、企業の求人活動が活発になってきた感がある。実感としては、前年同様の印象を受けており、向こうしばらくはこのペースのまま推移するものと予想している(学校[大学])。
		その他の特徴 コメント		: 依然として、求職者が集まらない状況が続いており、企業へのマッチングに苦労している(人材派遣会社)。 × : 自店舗も求人難が続いており、スタッフがそろわないと集客ができないうえ、人件費が高騰している。県外の人材や障がい者、高齢者の採用も始めている。この状態は続くともみているので、人を使わない事業形態に転換していかねばならない(その他飲食[居酒屋])。

(D I) 図表24 現状・先行き判断D I (沖縄)の推移(季節調整値)

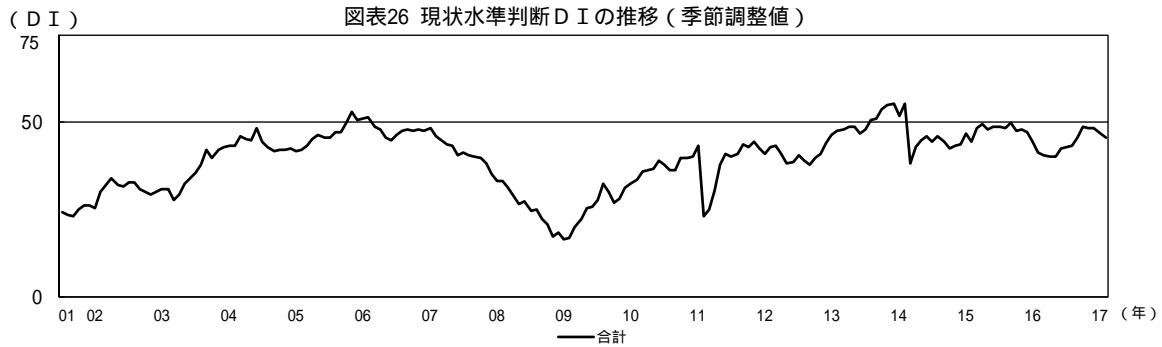


(参考1) 景気の現状水準判断D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった(注)

図表25 景気の現状水準判断D I (季節調整値)

(D I)	年 月	2016 10	11	12	2017 1	2	3
合計		45.3	48.4	48.3	48.2	46.8	45.3
家計動向関連		42.6	46.3	45.5	46.1	43.9	43.1
小売関連		39.9	45.3	43.3	44.2	41.5	39.9
飲食関連		40.8	41.8	45.5	44.3	42.2	44.8
サービス関連		47.2	48.5	49.1	49.8	48.6	48.6
住宅関連		47.4	49.7	48.2	48.4	46.8	44.1
企業動向関連		48.0	50.4	51.3	49.8	49.7	46.7
製造業		47.7	49.6	50.9	50.2	48.1	45.2
非製造業		48.4	50.8	51.7	49.6	51.2	48.3
雇用関連		57.3	58.2	60.5	59.1	58.9	57.1



図表27 景気の現状水準判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2016 10	11	12	2017 1	2	3
全国		45.3	48.4	48.3	48.2	46.8	45.3
北海道		45.8	49.0	46.9	49.3	48.9	47.1
東北		46.0	49.0	46.0	47.0	44.8	42.9
関東		42.9	46.6	47.1	45.6	44.8	43.8
北関東		40.4	43.6	44.4	43.1	44.5	41.0
南関東		44.3	48.3	48.7	47.1	45.0	45.5
東京都		45.3	48.3	50.7	47.9	46.7	46.3
東海		46.4	47.9	48.0	49.7	49.1	46.0
北陸		47.5	51.8	52.4	52.8	52.0	50.5
近畿		44.3	47.8	49.4	50.4	47.2	46.5
中国		47.5	49.2	50.4	49.2	48.8	47.1
四国		43.7	48.5	43.8	45.4	44.3	43.1
九州		47.5	49.8	50.7	50.2	47.2	43.6
沖縄		49.9	54.3	53.8	61.7	58.8	55.9

図表 28 景気の現状水準判断 D I (原数値)

(D I)	年 月	2016			2017		
		10	11	12	1	2	3
合計		43.7	46.0	48.0	46.7	46.4	48.4
家計動向関連		40.7	43.2	45.4	44.2	43.3	46.5
小売関連		37.7	41.6	42.4	42.7	41.4	42.9
飲食関連		37.5	38.3	49.2	42.1	40.5	49.7
サービス関連		46.0	46.8	49.7	47.2	46.8	52.5
住宅関連		46.5	46.8	47.0	46.8	47.1	46.8
企業動向関連		46.6	49.5	51.2	48.7	49.9	49.3
製造業		46.0	49.2	50.8	49.3	49.1	48.4
非製造業		47.1	49.4	51.6	48.3	50.8	50.7
雇用関連		57.0	56.3	58.5	59.4	59.8	59.6

図表 29 景気の現状水準判断 D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年 月	2016			2017		
		10	11	12	1	2	3
全国		43.7	46.0	48.0	46.7	46.4	48.4
北海道		44.4	45.6	45.3	47.3	47.2	48.0
東北		44.5	46.8	45.4	44.9	42.8	46.2
関東		41.4	43.8	46.1	44.3	44.2	46.5
北関東		39.2	41.4	43.1	40.9	43.9	43.6
南関東		42.7	45.1	48.0	46.3	44.3	48.2
東京都		44.3	45.2	49.6	47.0	45.8	49.3
東海		44.1	44.6	49.1	48.8	49.6	49.7
北陸		46.0	49.5	51.3	51.0	51.1	52.9
近畿		42.4	45.9	49.4	48.1	47.2	49.4
中国		46.0	47.2	50.6	47.4	47.9	49.6
四国		42.3	46.6	43.5	42.5	44.1	47.0
九州		45.7	48.6	51.6	47.3	46.1	48.4
沖縄		49.3	52.0	51.3	59.0	59.2	58.8

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

(参考2) 区分変更に伴う参考D I等

有効回答率

	調査客体	有効回答客体	有効回答率
東北(新潟除く)	188人	174人	92.6%
北関東(山梨、長野除く)	129人	120人	93.0%
甲信越	93人	88人	94.6%

図表30 現状判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2016			2017		
	月	10	11	12	1	2	3
東北(新潟除く)		46.1	50.7	48.4	48.4	48.6	44.9
北関東(山梨、長野除く)		48.2	49.7	50.9	47.3	48.2	45.6
甲信越		47.2	49.2	50.6	47.2	47.2	43.3

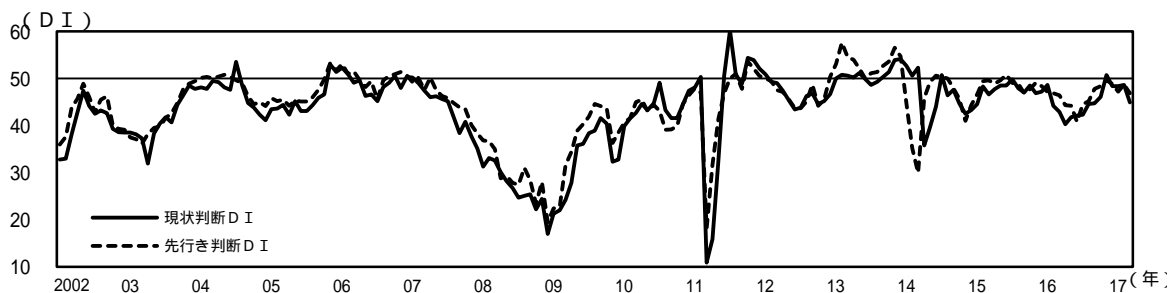
図表31 先行き判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2016			2017		
	月	10	11	12	1	2	3
東北(新潟除く)		48.4	49.6	48.8	47.2	48.7	46.9
北関東(山梨、長野除く)		48.6	49.3	50.2	46.5	48.3	49.2
甲信越		51.1	48.7	48.0	49.4	45.7	48.4

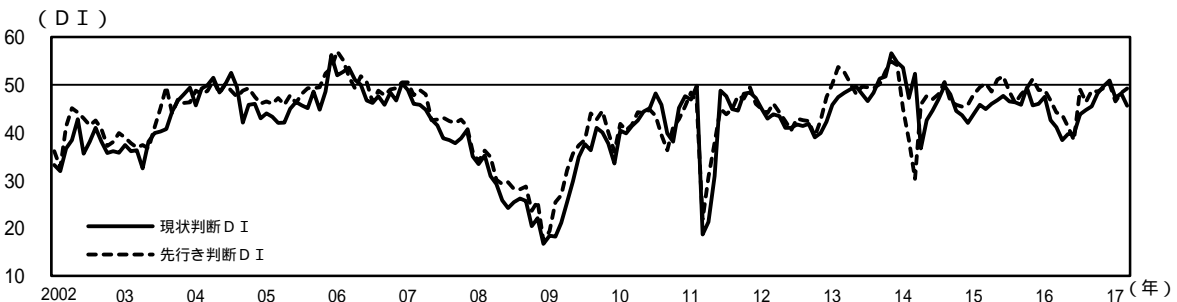
図表32 現状水準判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2016			2017		
	月	10	11	12	1	2	3
東北(新潟除く)		45.4	48.2	46.0	46.5	44.5	43.1
北関東(山梨、長野除く)		41.1	45.0	45.7	43.8	46.5	42.6
甲信越		41.3	43.5	42.7	45.0	44.9	38.9

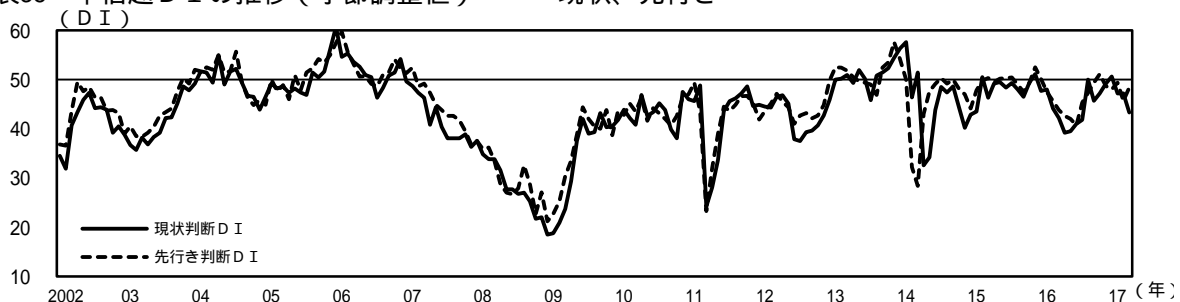
図表33 東北D I (新潟除く)の推移(季節調整値) 現状、先行き



図表34 北関東D I (山梨、長野除く)の推移(季節調整値) 現状、先行き



図表35 甲信越D Iの推移(季節調整値) 現状、先行き



図表36 現状判断D I (原数值)

(D I)	年 月	2016			2017		
		10	11	12	1	2	3
東北(新潟除く)		43.4	48.0	47.6	46.5	46.2	48.9
北関東(山梨、長野除く)		45.9	47.4	50.2	46.2	47.9	47.9
甲信越		45.1	45.7	48.3	44.1	45.1	46.3

図表37 先行き判断D I (原数值)

(D I)	年 月	2016			2017		
		10	11	12	1	2	3
東北(新潟除く)		46.6	47.3	47.4	48.2	50.0	47.8
北関東(山梨、長野除く)		47.8	46.3	47.8	47.0	48.5	49.6
甲信越		49.2	44.3	44.9	48.6	47.7	50.6

図表38 現状水準判断D I (原数值)

(D I)	年 月	2016			2017		
		10	11	12	1	2	3
東北(新潟除く)		44.0	46.1	45.3	44.6	42.6	46.3
北関東(山梨、長野除く)		40.4	43.4	45.3	42.3	45.1	45.0
甲信越		39.8	41.4	41.0	40.7	42.2	42.0

甲信越

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連		・車検や一般修理の入庫は前年同月を上回るが、車両販売は、需要月であるのに販売台数が低迷している(乗用車販売店)。	
			・2か月前と比較して、買上単価が相当上昇している。また、目的以外のものについても複数購入する傾向がみられており、景気は少し上向いている(百貨店)。 ・今月の異常な寒さの影響が、売上の良い日、悪い日が極端である。また、悪い日の割合が高い(一般レストラン)。	
		×	・前年の大河ドラマ景気とは比べようもないほど悪いが、一昨年と比べると善戦している(商店街)。	
	企業 動向 関連		・来園者は平年より多く、工場見学者も増加している。また、売店での売上額も、前年を10%程度上回っている(食料品製造業)。	
		×	・国内の宝飾品マーケットは冷え込んでいる。展示会でも来場者、購入者は少ない。卸のルート販売も不振で、先が見えない(その他製造業[宝石・貴金属])。 ・海外の景気動向が良くなってきていることに加え、国内の季節的要因もあり、景気は徐々にではあるが、良くなってきている(金融業)。	
	雇用 関連		・来年度の新卒採用について、周辺の大、中規模企業では積極的に募集を行っている。年度末の3月は多忙なため、運送、サービス業は求人をして、応募が極端に少なく、人手不足が続いている(求人情報誌製作会社)。	
			・在職中の求職者が増加している。より良い条件を求めて、急がず探している人が多い。企業整理による解雇者は少ない(職業安定所)。	
	その他の特徴 コメント			：今冬のスキーシーズンは前半雪不足に悩まされたが、遅めの積雪で安定した入込客である。ただし、好況にシフトしているとは言い難い(観光名所) ：春のイベントである卒業式等は、1年で1番おしゃれをする月であるが、来客数が前年同期よりも減少している(美容室)。
	先行き	分野	判断	判断の理由
		家計 動向 関連		・電気料金の値上げや為替変動等による輸入原材料の値上げが予測される。可処分所得の上昇は望めないため、余分なものは買わない傾向は、しばらく続く(スーパー)。
			・農業や園芸関係が動く時期のため、良くなるとみている(一般小売店[雑貨])。	
企業 動向 関連			・企業の慎重姿勢が続くとみられる。製造業は半導体関連の一部業種では好調が予想されるが、その他では横ばい状況が続く。非製造業では観光イベントの一段落から横ばいの動きが予想される(金融業)。	
		×	・英国でのワインプロモーション活動や県産ワインの高品質化、また、消費拡大に向けた事業推進と官学の積極的な支援もあって、今後の伸びが期待できる(食料品製造業)。 ・春先になっているいろいろなイベントが催されるものの、集客に不安が残っている。今年になって前年と比べて良い数字が出ていないことから、先行きに不安を感じる(その他製造業[宝石・貴金属])。	
雇用 関連		・有効求人倍率は引き続き1倍を上回る水準で推移している。ただし、上昇要因は有効求職者の減少が続いているところが大きく、今後景気が上向くような要因は見当たらない(職業安定所)。		
その他の特徴 コメント			：前年は大河ドラマの影響で春の売上が多かった。今年は大河ドラマほどではないが、鉄道会社のディスティネーションキャンペーンや、旅行会社のキャンペーンなどもあるため、前年並みは維持できるのではないかと期待している(観光型旅館)。 ：新商品展開も予想が付かず、ゴールデンウィークや夏場の工芸教室に期待している(窯業・土石製品製造業)。	